



良い季節になりましたね。  
花粉症という新しい季語が加わりつつある春。  
黄砂、土埃、春泥・・・おだやかな春の中にあり、  
反面憂鬱にもなりがちですが・・・  
皆様は大丈夫でしょうか？

さて、今回もお二人から投句をいただきました。  
まずうさおさんの句から拝見しましょう。

青白き指照らしおり月寒し

良くわかる句です。寒さの中ではすべてが青みを帯びたように感じますものね。  
寒月として最初に持ってきた方が季語がもっと生きてきます。

\*寒月や青白き指照らしをり

息を掛け息を掛けてはみぞれ雨

手を温めてもみぞれ雨の中では冷たさが増すばかりですよ。  
良い句だと思います。リフレインを少しだけ変えて

\*息掛けてまた息掛けてみぞれ雨

いぶかしや犬抱きしめて暖とれば

いぶかしや・・・というのが気になります。らいちゃん具合悪いのでしょうか。

\*春寒や気がかりに犬抱きしめて

犬の鼻冷たさに吾跳ね起きて

春の句ならばこうなります。三月と朝寝が季語重なりになりますが・・・  
はっきりとした季語を有効的に使う方事が俳句には大切なのです。

\*三月の犬の鼻先朝寝裂く

木枯らしの吹く夜道の重き足

木枯らしが吹く、の吹くは省いても良いと思います。\*木枯に足取り重き夜道かな

うさおさんの良さは今あったことをそのまま自然に詠まれる事、  
これはこのまま続けていただきたいと思います。

ただ、今回うさおさんは冬の季語を使われましたが、俳句は先取り、二月の節分からは春なのです。春のやさしい感じのものもあれば良かったな・・・と思います。

続いて健さんの句です。



春愁い盛り塩高く積まれあり

盛り塩が良いですね。それと春愁いとを繋げたのはすばらしいです。

\*春愁ふ盛り塩高く積まれをり



春めくやモールの上の観覧車

良い句です。モールの上が良いですね。遊歩道？ショッピングモール？

どちらにしても観覧車をはっきりと見えてきます。



明るさを取り戻したる春の街

素直に詠めていて良いですね。



葉脈の標本かざす春陽射し

葉脈の標本と春の陽射し・・・取り合わせが良いです。

\*葉脈の標本かざす春陽かな



高台に鳶の鳴き声春彼岸

これも良い句です。一見なんの意味もない高台の鳶の鳴き声ですが、春彼岸の季語が何故かぐっと来ます。お上手です。

健さんは相変わらず目の付けどころがすばらしいです。

これからも、まわりの物にびったりとくる季語を

探しながら、俳句を楽しんでいただけたら・・・と思います。

今回十七文字に関して・・・というのではないのですが、私が所属している同人誌の会報に私の好きな、「白き旅立ち」（渡辺惇一著）を引用して、「梅ふふむ」というエッセイを載せました。小説ではなくエッセイなので、重複してもかまわないと思います。いつも大好きな一冊にあげる「白き旅立ち」をDGの皆様にも紹介したいのと、梅含むというのは俳句の大好きな季語でもあるので、読んで頂きたいな・・・と思います。

